



法 人 格 を 取 得 し て

一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会 会長 折茂 賢一郎

平成12年3月21日に産声を上げた“群馬県介護支援専門員連絡協議会”は初代高玉真光会長のもと「介護保険制度の健やかなる実現のみならず、県民の生活全般にかかわる様々なサービスを提供する全ての過程において、福祉・保健・医療の緊密な連携の下に、公平かつ公正・中立に利用者を擁護し、包括的に調和のとれた支援をしつづけることを誓い、その倫理規定を明らかにするとともに、ここに設立すること」を宣言しました。介護保険制度の中心的な役割を担う介護支援専門員によって組織されたのですが、当時は乱造乱発との揶揄や、その使命や位置づけも曖昧なまま、手探り状態での出発でしたが、高玉初代会長の指導力と高い理念の下に多くの仲間が集いました。私とその2代目の会長に就任したのが10年後の平成21年4月でした。超高齢社会は少子化の影響もあり拡大路線のバブルははじけ、認知症高齢者の増加や介護保険を利用する方々の多様性などが指摘されていました。利用者本位は個別性のあるサービス調整が望まれるのはもちろんのことではありますが、忘れてはならないものが自立支援型の質の高いケアマネジメントです。

介護保険サービスは地域に密着した包括ケアの中で位置づけられます。県内を11の圏域(支部)に区分けして直接的な活動を行うことは理にかなっています。保険者である市町村の権限の中での活動はサービスの効率性、実効性とともにより意義のあるものですが、県という枠組みで他の市町村での活動の様子を知り切磋琢磨や刺激を与えあうことだけでなく、広域で公益性のある活動を行うことの重要性は言を待ちません。今までの組織は“任意団体”としての仲良しグループのようなものでした。会員も1400名を数え、世間で公認される団体としては心もとない存在であることは早くから自覚していたのですが、14年目が経過した平成25年4月1日に念願の“一般社団法人”として新たなステージに入ることになりました。本来は群馬県内の全ての住民の利益のために活動することが主目的ですから、公益社団法人としての更なる飛躍も念頭に置いての今回の法人格取得です。一歩ずつ着実に活動を重ね、我々群馬県内の介護支援専門員の質と連帯の向上、障害を抱えても生き甲斐を持って自立した生活を支援できる群馬県づくりに寄与していきたいと思う次第です。会員一人一人の声を大切にしていける所存です。是非とも皆さん、宜しくお願いします。

地域包括ケアシステムと 介護支援専門員

群馬県健康福祉部介護高齢課長 渡辺 隆男

地域包括ケアシステムとは、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを適切に提供できるような地域での体制のことをいいます。ここで「適切に」というのは、高齢者のニーズに応じて、保健・医療・福祉等のサービスを適切な組み合わせで、入院・退院・在宅復帰という状況変化に即して切れ目なく、という意味です。高齢者のニーズを把握して必要なサービスにつなぐというのは、ケアマネジメントの考え方そのものと言えます。

高齢者の生活は、介護保険サービスだけでは支えられません。その人の必要に応じて、医療はもちろん、リハビリ、買物支援、権利擁護等のサービスにつなぐ必要があります。これらのサービスには、事業者が提供するもの、行政が高齢者福祉の事業として行うもの、地域住民がインフォーマルに提供するもの等がありますが、いずれも、その地域の社会資源ということができます。

高齢者のニーズと地域の社会資源が多様化するほど、個々の高齢者と直接向き合い、生活課題を分析し、必要なサービスにつなぐという介護支援専門員の役割が重要となります。個別のケアマネジメントが適切に行われることで、地域包括支援センターも、地域全体の課題に取り組むセンターとして機能できるでしょう。

そのため、介護支援専門員には、基礎となる職種にかかわらず、保健・医療・福祉サービスの知識を更新し続けるとともに、地域の住民やNPOの活動の情報を意識的に収集することが求められます。さらに、地域の高齢者のニーズを最も的確に把握している者として、積極的に地域に出て、地域の社会資源のネットワークを上げていくことも期待されています。

群馬県介護支援専門員の皆様には、地域の高齢者を支える要であることを改めて認識され、一層の研鑽を積み、ケアマネジメントの専門職として社会の期待に応えていただくことを、心から期待しております。

群馬県在宅チーム医療 地域リーダー研修に参加して

介護老人保健施設青梨子荘 松本 勝美

群馬県在宅チーム医療地域リーダー研修が群馬県主催にて平成 25 年 2 月 3 日（日）に開催されました。

参加者は医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、MSWのそれぞれの団体から推薦された方々が群馬県各地区から各職種 2 名、各市町村担当者、各保健福祉事務所担当者など、全体で約 200 名程度が参加しました。

《群馬県在宅チーム医療地域リーダーとは・・・》

厚労省は在宅生活支援のために次のような施策を施行しています。

1. 医療・福祉に関わる施策

①医療・介護機能再編の方向性のイメージ ②地域包括ケアシステム

2. 在宅医療の施策

①保健医療計画 ②在宅医療連携拠点事業 ③多職種協働による在宅医療を担う人材育成事業

特に 2012 年を在宅医療元年とし、在宅医療推進を掲げた施策を実施しています。その背景にあるものは、「疾病構造の変化」「高齢者の増加」「国民のニーズ」があり、病気をもちつつも、可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごせるよう、在宅医療の推進・普及が求められているという現状が要因とされています。（特に群馬県は在宅医療関係施設が全国平均と比べても少ない状況にあります。）

今回の研修は、③多職種協働による在宅医療を担う人材育成事業の一環として位置付けられています。

群馬県在宅チーム医療地域リーダーとは、在宅医療において、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、MSWなどの多職種が各々の専門知識を活かし、積極的な意見交換や情報共有を通じて、チームとして患者や家族の質の高い生活を支えていくことが重要であり、こうした多職種の連携による在宅チーム医療を地域で推進していくため、その中心的な役割を担うのが群馬県在宅チーム医療地域リーダー（指導者）です。

主な仕事として、各地域の実情や教育ニーズに合ったプログラムを策定し、それにそって各市町村で地域の多職種への研修を行なう。これらを通じて患者が何処にいても医療と介護が連携したサポートを受けることができる体制構築を目指すものです。

今回の研修は上記目的のための最初の一步であり、研修内のグループワークにおいても様々な課題が抽出されました。課題はたくさんありますが、地域リーダーの一人として協力していきたいと思います。

「理事会・各委員会 2～4月の活動報告」

理事会

会長 折茂 賢一郎

3月4日（月）は25年度の予算案などを議論しました。会費が主な収入源の団体として、会員数の伸び悩みは活動の制限にも繋がります。節約は大切ですが、実効性のある活動には経費もかかります。法人格を目指すには会計事務などの必要経費も捻出しなくてはならず、難しい議論で終始しました。3月28日（木）には臨時理事会を開催しました。4月1日の法務局への一般社団法人としての届け出により登記されなくてはなりません。その際には設立時社員と理事の署名や捺印などの手続きとともに“定款”が確固たるものでなくてはならず、その手続きの最終確認のための議論が大半でしたが、日本介護支援専門員協会の平成25年度の会長や理事、代議員選挙などの話題も取り上げました。

総務財政委員会

総務財政委員長 細野 昇

会員の皆様には、いつも本会の運営にご協力を頂き有り難うございます。総務財政委員会では4月1日の本会の一般社団法人移行を法人化特別委員会と共に進めてきました。法人化に一定の目途が立ち、会員の皆様の協力によるものと感謝しております。委員会では本会の法人移行がスムーズに行われるために、平成24年度事業報告案や会計報告案の作成などの残務整理に当たっています。また、県委託事業受託のもう一つの条件である、単独事務所の設置を検討しています。

一般社団法人移行後も本会経理状況は大きく変わることは期待できず、単独事務所を設置した場合の経費の捻出方法など多くの問題を抱えたままの状態です。移行後には役員を始め会員の皆様にもこの状況を正しく理解して頂き、ご協力頂けますようお願い申し上げます。

なお、私事ではありますが、3月31日をもって総務財政委員長を退任させて頂きます。10年間に渡りご協力頂きましたことを深く感謝申し上げます。

学術研修委員会

学術研修委員長 安藤 繁

2月3日にさいたま市で開催された「野中猛先生に感謝する会」に出席してきました。質の高い“心に残る勉強会”でした。そのなかで、当委員会からの発議で実現したことが折茂会長から野中先生への特別表彰—表彰状の授与でした。「表彰されたなんて初めてかなぁ…普通は副賞が付いているものだけだね」と、とても素晴らしい笑顔でお礼を述べてくださいました。

長年、群馬県の会員のために本来のケアマネジメントをご教授くださっている先生に、改めてこの場で感謝と敬意の念を表します。

広報情報委員会

広報情報委員 須田 和也

2月には会報 No. 78号の紙面編集を行いました。前号でも掲載のとおり、一般社団法人化に関する臨時総会の記事や日本ケアマネジメント学会と本会の合同研修会の記事の掲載の編集作業を行い、3月1日に発行いたしました。

3月15日には広報情報委員会を開催し、今回発行しました会報 No. 79の紙面検討を行いました。今回一般社団法人化されましたが、これまで以上に会員の皆様にも有用な情報をお届けできるように委員会として活動したいと考えております。

ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎 実行委員会報告

実行委員長 須田 和也

本大会本年9月8日(日)に開催予定をしているケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎は前回ケアマネ群馬でも安藤大会長より報告があったとおり、高崎市棟高町(旧群馬町)の高崎市民活動センターソシアスを会場に開催を予定しております。

今大会のテーマは「技術としてのケアマネジメント ～認知症ケアの手がかりに～」と決定致しました。

今大会のプログラム企画、運営等を行う実行委員会は昨年11月に立ち上がり、毎月1回のペースで実行委員会を開催、3月28日には4回目の実行委員会を開催しています。

安藤大会長をはじめ、学術研修委員、西毛地域を中心とした各地域の支部長、高崎安中支部役員などを中心に、実行委員会の中でプログラム内容の詳細な検討や会場の様子の確認、今大会の運営に関することなど検討を行っている状況です。

大枠での企画概要としては、前回大会のプログラム構成に近いものとなっており、午前中は教育講演を予定しております。昼食時はランチョンセミナーをはさみ、午後は当日参加される方がそれぞれのセッションを選択できるような形となっております。会員の皆様方への広報や申込み受付など、もうしばらくしますと開始できるかと考えております。

今大会は、既にご存知のとおり4月より当団体が一般社団法人化されて最初のケアマネジメントフォーラムであり、ケアマネジメント群馬フォーラムが開催され始めて記念すべき10回目でもあります。



こうしたことも踏まえ、参加された方にとって満足度の高く、私たちケアマネジャーが日常的に行っているケアマネジメントの質を高められるフォーラムとして行きたいと考えておりますので、会員の方、非会員の方も含め多数の参加をお待ちしております。

多野・藤岡支部

連絡先：TEL 0274-24-6666



藤岡多野医師会長 山崎 恒彦先生

平成 25 年 2 月 25 日（月）藤岡市商工会議所にて、昨年に引き続き藤岡多野医師会との第 2 回交流会が、医師会 15 名、支部会員 24 名、非会員 7 名 計 46 名の参加で開催されました。

第 1 部は、介護保険及びその他の「高齢者施設サービス」概要説明。第 1 回交流会で、参加されていた先生から「医者って施設の違いも案外知らないもので、それを説明してもらうのも参考になると思うよ」との提案を頂いての内容でした。そんな助言を頂けること自体嬉しいことです。第 2 部は、お料理と飲み物を楽しみながら懇親のひととき。人はともに食卓を囲むと、グッと近くなれるものです。「近づきにくいと思っていた先生が、ユーモアのある話しやすい方だと思って嬉しくなりました」という会員の声を聞くと、このような機会を持つことの大切さを実感します。

この会が回を重ね、要介護者（患者）の質の高い生活を支えるという共通の目的に向けて、より緊密な関係を創り上げていく一助となることを願ってやみません。お忙しいなかで参加くださった先生方に改めて感謝申し上げます。

（特別養護老人ホームふじの里 小出 良一）



リラックスしたなかで歓談

吾妻支部（ケアマネ吾妻の会）

連絡先：TEL 0279-75-6517

3 月 22 日（金）、伊香保温泉で恒例の宿泊研修を開催しました。

今回は、原町赤十字病院看護係長（皮膚・排泄ケア認定看護師）の山口文子先生に講師をお願いし「ストーマケアについて」学びました。

内容は ①ストーマの基本的な理解 ②正常と異常についての判断や連携を講義していただき、休憩をとった後に、ストーマケアについてモデルを使用して実際に経験させてもらいました。参加した会員



は積極的に質問をしたりストーマに使用するパウチを手に取り、「なるほど」と感心したりしていました。

夜の懇親会は、講師の山口先生も参加していただき少数（13 名）ではありましたが、大変楽しく二次会まで突入しました。今後も楽しく学べる宿泊研修を継続していきたいと思います。

（特別養護老人ホームやまゆり荘 田村 広行）

太田支部

連絡先：TEL 0276-32-1212

太田支部は3月7日、医師会・薬剤師会・介護保険事業者協議会の4団体が合同で認知症研修会を行いました。日頃から協働関係にあるメンバー 130 余名が一堂に集い、熱心な勉強会になりました。

続いて3月23日(土)には、人財開発研究所創設者であり行動科学博士としてご活躍されている牛島日出男先生を講師に招き、コーチングの研修会を行いました。「やりがいを見出すための、効果的なコミュニケーション」と題して、午前・午後の2回に分けて50 余名が受講しました。先生はこの研修の2週間前に手術を受け、5日前に退院したばかりでしたが、そんなことを感じさせない力強い講義を展開し、その熱意には本当に頭が下がりました。

講義では、クライアント自身が目標達成に向けて行動を起こすことの重要性に気づくことが大切であり、そのコーチには、相手を理解するための「傾聴」と、現状を把握し行動に移すことを引き出すための効果的な「質問」、そして相手の存在価値を認める「承認」が重要であると学びました。演習では、2人ずつペアになって講義で学んだことを体験的に学習しました。

また、「効果的なコミュニケーションの5要素」である自己概念、傾聴、明確な表現、感情の取り扱い、自己開示について、自己検討表を使って分析し、自分自身の特性を再認識することができました。

できれば継続的に学習し、利用者とのより良い関係づくりにコーチングの技術を活かしていきたいと思います。

(ケアプランセンターコスモス 八町 夏美)



高崎・安中支部

連絡先：TEL 027-382-7060

高崎・安中支部より碓氷安中ケアマネの会の活動を紹介させていただきます。

碓氷安中ケアマネの会では、年4回、定例会を開催し、うち1回は碓氷安中医師会の先生方との勉強会、交流会を開催しております。

定例会では、事業所単位で勉強会や研修会を企画、開催すると共に、日頃、業務を行っている中での疑問点について意見を出し合い、考えてゆく機会を設けております。年1回の交流会では、医師会の先生方との交流により関係性が築けると共に、お互いに役立つような内容での勉強会、研修会を実施しております。

活動を行うにあたり様々な苦勞もありますが、このような活動が平成12年より続けられ、定例会ではケアマネが30名程度参加し、交流会では先生方を含め60名程度の参加が得られています。

今後も参加者同士の交流及び資質向上を図ると共に先生方との協働関係を築く事によりご利用者様への支援の質を高めてゆけるよう活動してゆきたいと思います。

(特別養護老人ホームのどの荘 原野 正嗣)

3月15日（金）、22日（金）に前橋市総合福祉会館において、第2回研修会が、渋川市国民健康保険あかぎ診療所の菅野圭一氏をお迎えして行われました。

「性格タイプ別アプローチのススメ」をテーマに、自分と他人の性格タイプを色分けで把握し、「合わないタイプ」の人とのコミュニケーション方法を学ぶ研修として、今回は2回シリーズで企画しました。

15日は「自分自身を知る」（基礎編）で、性格タイプ（傾向）ごとに性格を4色に分け（青＝理性・冷静、赤＝積極的・情熱、緑＝協調性・平和、黄＝感性・明るい）、実例から自分の性格を分析、自分の性格が分かり、相手の性格も理解できることで、円滑なコミュニケーションが取れることを楽しく学習させていただきました。



22日は「相手を知る、対処法を考える」（応用編）で、4色に色分けされた性格タイプ（傾向）別の思考・行動パターンを、芸能人や歴史上の人物等に当てはめたり、グループワークで相手の性格タイプ（色分け）を分析し理解し合うなど、より実践的な内容で日頃の業務にも活かせるのではと感じました。

今回は内容が盛りだくさんで時間切れとなってしまいましたが、次回の研修に期待したいと思います。

（前橋市地域包括支援センター東部 星野 一郎）

事務局だより

平成25年度定期総会・記念講演会のご案内

平成25年度 一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会 第一回総会を下記のとおり開催いたします。また、総会に引き続き記念講演会を予定しております。

会員の皆様は是非ご出席ください。

なお、ご都合により総会に出席出来ない方は、定足数の出席を要とする議案がございますので、**必ず委任状の提出**をお願いいたします。

●日時 平成25年5月26日（日） ●開会 13:30～14:50

●会場 群馬県社会福祉総合センター 8階ホール 前橋市新前橋町13-12

設立記念講演会 15:00～16:30

「あなたを輝かせる色の探し方から色カルタまで」

NPO日本パーソナルカラー協会 理事

色彩ケア・色カルタクオリア研究所 代表 三浦 南海子 先生

問い合わせ：協会事務局 電話027-255-6226（担当：伊藤）

編集 後記

一般社団法人群馬県介護支援専門員協会となって記念すべき最初の広報の編集担当をさせて頂きました。会の名に恥じぬよう、新たに気を引き締め、人生の先輩方の「その人らしい生活」を探求していけたらと思います。会員一丸となって頑張っていきましょう。（の）